

リ

〔病名彙解^六〕龜背 背高ク出テ龜ノ甲ノ如クナル故ニ名ケリ、大人ニナルマデ治セザレバセム
シニナル也、

〔日本書紀^{二十六}〕三年、西海使小華下阿曇連頰垂、小山下津臣僂僂俱^{僂俱}豆磨^{此云}自百濟還獻駱駝一
箇、驢二箇、

〔倭名類聚抄^三〕臍 四聲字苑云、臍 齊^齊二反、和名^保、俗云倍^倍、腹孔也、

〔箋注倭名類聚抄^二〕按臍說文單作臍云、臍、人齋也、後人增肉旁作臍、急就篇、脾腎五藏臍齊乳、
遂與牛百葉又臍脰字混無別、臍說文作齋云、臍齋也、釋名臍劑也、腸端之所限劑也、

〔伊呂波字類抄^部〕臍 臍^セイ、ヘソ、亦ホソ、 齊^同

〔下學集^上〕臍^カ

〔倭訓栞^{前編}〕二十七へそ^略 俗に臍をへそといふは、ほその轉せる也、倭名抄にも見えたり、でべ
そを臍突といふ、

〔日本書紀^{神代}〕一書曰、^略中 軻遇突智娶埴山姫生稚産靈、此神頭上生蠶與桑、臍中生五穀、罔象、

〔太平記^二〕長崎新左衛門尉意見事附阿新殿事

阿新^略 中 今ハ右トウレシクテ、本間三郎ガ枕ニ立寄テ探ルニ、太刀モ刀モ枕ニ有テ、主ハイタク

寢入タリ、先刀ヲ取テ腰ニサシ、太刀ヲ拔テ心モトニ指當テ、寢タル者ヲ殺バ、死人ニ同ジケレバ、

驚サント思テ、先足ニテ枕ヲハタトジ蹴タリケルケラレテ驚ク處ヲ、一ノ太刀ニ臍ノ上ヲ疊マ

デットツキトヲシ返ス、太刀ニ喉ブエ指切テ、心閑ニ後ノ竹原ノ中ヘゾカクレケル、

〔陰德太平記^{六十六}〕賀茂城合戰之事

秀吉彌氣色快然トシテ、今我云所ハ、當時諸國ノ軍兵ノ軍スル様體ヲ、荒々評論セシ也、サレ共兵